

影響に関する報告例の評価方針について（案）

1. 内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質が人や野生生物に有害影響をおよぼすとする仮説に関する国内情報の収集方法

文献検索データベースを利用して、文献検索を行い、国内における人健康影響に関する文献及び国内における生態影響に関する文献を収集する。

文献検索データベースとしては、国内の情報源が比較的広いJOIS（独立行政法人科学技術振興機構が提供するオンライン文献検索システム）等を利用する。

2. 収集した国内情報の評価方法

得られた国内情報の評価（懸念される影響と化学物質曝露との関連性及びその関連性において内分泌系が介在するメカニズムの関与の有無）を行う。評価作業に当たっては、下記の各分野の専門家からの助言を得る。

人健康影響
生態影響
作用メカニズム
曝露

なお、WHOグローバルアセスメント第7章「内分泌攪乱化学物質を評価するための原因クライテリア（フレームワーク案）」を参考とする。

また、WHOグローバルアセスメントにおいて対応済みの内容については重複作業を避ける。

3. 文献検索結果

平成16年6月4日にJOISを利用して文献検索を行った。

国内における人健康影響に関する文献検索はキーワードとして、日本、内分泌、生殖、汚染、化学、物質、ヒト、健康、疫学、曝露を用いた。その結果として、約260件の文献が検索され、その中から約30件の人健康影響に関する文献が得られた。

国内における生態影響に関する文献検索はキーワードとして、日本、内

分泌、生殖、汚染、化学、物質、野生、野外、フィールド、曝露を用いた。その結果として、約 40 件の文献が検索され、その中から約 15 件の生態影響に関する文献が得られた。

得られた約 45 件の文献に文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省並びに環境省から公表されている報告書の該当部分を併せて、国内情報の評価を行う。